

市民公開講座



歩行障害と共に歩む

去る4月3日、当院7階講堂において歩行障害をテーマにした市民公開講座を開催し、多くの市民の方々にお集まり頂くことができ、約170名の来場者で会場席は満席となりました。一言に歩行障害といつても「ふらつく」「小刻みになる」「足がすぐむ」など症状は様々で、その原因は脳卒中、神経難病、整形疾患、薬剤性など多種多様の要因が絡んできます。

そこで今回は、神経内科、脳外科、整形外科の各医師、薬剤師、理学療法士、看護師、ソーシャルワーカーが集結し、それぞれの専門的な見解について講義を展開いたしました。冒頭では榎原医師より脳卒中及び神経難病についての説明をし、続いて脳外科の宮崎医師から最近話題の脳深部刺激療法や正常圧水頭症について、整形外科の藤野医師からは腰痛を中心とした歩行障害について、神経内科の岸医師からは、糖尿病の末梢神経障害の診断や治療について等、歩行障害を及ぼす様々な疾患や病態、対応方法に関する内容を取り上げました。さらに、薬剤師からはパーキンソン治療薬や痛み止めの服薬管理、理学療法士からは歩行障害を軽減させるストレッチや



今後とも、当院では市民公開講座にて皆様にお役に立つ医療情報を積極的に提供いたします。

■市民公開講座スケジュール ■

- 6／26(土) いびきと高血圧(循環器センター)(終了)
- 7／10(土) 排尿障害(泌尿器科)
- 7／24(土) 頭痛(神経内科、脳神経外科 etc.)
- 9／25(土) 肝臓(消化器センター、放射線科)
- 10／23(土) スポーツ外傷(整形外科)
- 11／20(土) 認知症(神経内科 etc.)
- 12／25(土) AMIと大動脈ステント(循環器センター)

運動の方法、看護師からは転倒や躊躇を予防する環境整備、ソーシャルワーカーからは歩行障害を持つ方の利用できる介護保険や地域サービスについての講演を展開し、内容が多岐にわたり大変有意義な公開講座となりました。

知っておきたい女性の病気



5月22日に開催した市民公開講座では、女性特有の疾患をテーマに取り上げ、産婦人科と外科の医師による疾患の概要説明、主な治療法、最新情報についての講義をもとに、聴講された約60名の市民の方々の中から質疑を受け応答するなどして市民の皆様との交流をもつことができました。

具体的な内容としては、産婦人科木下医師より、子宮筋腫や子宮頸がん、卵巣腫瘍などの基本的な診断から治療法に至るまでや、内視鏡下手術や予防ワクチンに関する情報についての講義をしました。また、外科の朴医師からは、乳がんに関する治療法として、乳房温存手術、セントネルリンパ節生検法などや乳がん術後の補助療法までの一連のプロセスについて説明をしました。いずれも、女性の病気として関心の高い分野であり、熱心に聴き入る市民の方々の姿が印象的でした。

東邦大学医療センター佐倉病院広報誌

～地域医療の発展を目指して～(年2回発行)



東邦大学医療センター佐倉病院
発行 広報委員会

〒285-8741 千葉県佐倉市下志津564番地1
TEL | 043-462-8811(代) FAX | 043-462-8820(代)
URL | <http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp>



自然・生命・人間

東邦大学 学祖 須田晋・著「自然 生命 人間」より

基本理念

医療の目的
質の高い医療を安全に提供する病院
病診(病)連携
地域に貢献する病院
教職員のあり方
人間愛を共有する病院
職場環境
楽しく明るくチャレンジする病院
生涯教育
良き医療人を育成する病院

患者の権利

質の高い公正な医療が受けられます
個人の尊厳が守られます
個人のプライバシーが保障されます
必要な医療情報の説明が受けられます
セカンドオピニオンが保障されています
医療行為について自己選択ができます

第11号
(2010.7.1)

医療連携・患者支援センターの紹介



副院長
医療連携・患者支援センター部長
加藤 良二

Topix News

医療連携・患者支援センターの紹介
副院長 医療連携・患者支援センター部長
加藤 良二

「臨床から生ずる問題点に真っ向から取り組む
画像診断・血管内治療・研究」

診療科新体制 市民公開講座
■整形外科 ■歩行障害と共に歩む
■泌尿器科 ■知っておきたい女性の病気

当センターはこれらの活動補助として、地域連携フォーラムの開催や外部との各種勉強会を通じて、“地域に貢献する病院”を実践します。また千葉県が推進している地域医療連携パスの運用を通して近隣医療機関とのネットワーク構築を図り、患者さんのスムーズな転院・退院が可能となるべく努力いたしております。

医療連携・患者支援センターは、患者さんだけでなく地域医師会の先生方を含めたすべての医療職の方のアメニティの向上を目指し、今後も努力いたします。

地域医療機関
(病院・診療所・その他機関)
各行政機関

患者紹介
各種検査依頼 …など

患者

患者逆紹介
紹介や検査依頼などの報告 …など

東邦大学医療センター
佐倉病院
医療連携・患者支援センター

医療連携・患者支援センターは、主に医療連携室・医療福祉相談室・看護相談室および図書室から構成されており、医師・看護師・ソーシャルワーカー・図書館司書・事務職員が協働して、患者さんに最新で高度な、そして快適な医療を提供するための幅広い業務を目指しています。

医療連携室では院内の数多くの部署との連携を取りながら、地区医師会や周辺の各医療機関、行政機関または患者さんご自身に向けた診療情報提供システムを確立し、紹介や返信情報を把握したうえで、様々なご要望への対応を行っています。また放射線画像診断などに一部ご利用頂いていますが、その他各種検査のオープン化事業を推進し、地域に貢献する病院を目指します。

医療福祉相談室では、通院・入院での社会保障制度紹介などの社会福祉相談をはじめとして外来通院での在宅介護支援その他患者さんの療養生活にともなって生じる様々なご相談に対応すべく院内・院外の行政機関を含めたあらゆる部署と連携をとりながら、快適な医療を享受できるように努めています。

看護相談室では、近隣医療機関との緊密なネットワークを構築し、在宅介護支援センター・訪問看護ステーションなどと連携をはかり、入院患者さんの退院後の訪問医療・在宅看護・在宅介護支援を行っています。

「臨床から生ずる問題点に真っ向から取り組む 画像診断・血管内治療・研究」

放射線科

准教授／長谷部 光泉

佐倉放射線科は、臨床に即した CT, MRI, 核医学検査・血管造影の画像診断を行っています。画像診断については、近隣の病院の先生からの多くの紹介を頂き、この場を借りて感謝申し上げたい次第です。我々は、腹部・骨盤領域、頸部・頭部領域、整形外科領域の各分野の画像診断専門医が臨床に即したレポートを提供することを心がけております。我々は、画像所見だけから単にレポートを書くのではなく、ご依頼先からの臨床情報、検査時の患者様の臨床情報を最大限に収集し、的確な画像診断を行い、そして緊急時や処置が必要な場合については細かな治療方針に至るまで示唆するスタイルを実行しています。スタッフはここ3年間で全国から集めることができました。現在は、寺田教授、私、森田講師、渡辺講師、黒土助教、角尾助教をスタッフとして10人の医局員および研修医数名にて業務を行っています。

また、我々佐倉放射線科の最大の特徴は、画像診断だけではなく、いわゆる「血管内治療、画像支援下低侵襲治療(IVR やカテーテル治療と呼ばれる)」を積極的に行っている点にあります。我々の扱う疾患は多岐にわたっており、肝細胞癌の動脈塞栓化療法、CT ガイド下のラジオ波焼灼術、外傷に対する出血・術後出血・腸管出血に対する動脈塞栓術、動脈瘤、動静脈奇形(脾、腎、肺、骨盤動脈など多数)に対する塞栓術、肺生検、肺・腹部の膿瘍ドレナージ、リンパ節生検などを多数の治療を行っております。以上の疾患に加え、我々、放射線科は、循環器センターの一つの部門として、特に、動脈硬化にともなっておこる閉塞性動脈硬化症: ASO に対する風船付きカテーテルやステントと呼ばれる金属の筒を用いた「血管拡張術」を非常に積極的かつ安全な治療を行っています。症状としては間欠性跛行が有名ですが、単なる腰痛として間違って放置されることが多く、高脂血症・高血圧・糖尿病、透析などの背景を有し、

足背の脈が触れにくい、数百メートル歩行すると足がだるい、疲れる、痛みがでる、などの症状の方は要注意です。こういった場合には、現在、我々の外来である「循環器センターの血管内治療・IVR 外来(月曜午前中):長谷部」に直接ご紹介いただけた幸いです。CT や MRI による迅速かつ詳細な画像診断、当院での入院による血管内治療を短期間の入院、心臓リハビリ等を行うことが可能です。現在、佐倉病院放射線科は、私を含めて3人の血管内治療の指導医が在籍し、本年度4月より IVR 学会専門医認定施設に認定されております。

また、当科の特徴としては、臨床における目の前の問題点に根本的なアプローチで真っ向から立ち向かう研究に取り組んでいる点にあります。目の前の患者さんに現在起きていてもなかなか改善できない問題点が山積していることは、すべての医師が日々経験していることだと思います。我々は、血管内治療で用いる器具に血栓が付着し、多くの問題が生じていることを契機に、長期的に血液がつかないコーティングを独自に開発しました。これは、「フッ素を含んだダイヤモンド・ライク・カーボン(DLC)」というナノレベルのコーティングです。これらの開発は、医学部だけで行っているのではありません。日本の工学部の技術は、世界的にもレベルが高いためこのテクノロジーを医療機器の開発と結びつけることが重要です。我々は、医学部と工学部の研究者が渾然一体となって患者さんの問題を解決するという新しい開発スタイル「医工連携」をすでに確立しています。現在、一部前臨床試験および動物実験が進行しております。

以上のように、開発研究を行なっていますが、それでもやはり一番大切なのは、放射線診断医、IVR 指導医として、一人一人の患者さんに丁寧に向き合い、そこで生ずる問題点を少しでも拾い上げていくことだと考えています。我々一同は、すこしでも患者さんの笑顔や幸せに貢献できたらいいなと思っています。

長谷部医師のチームが行っている、硬質炭素のコーティングによる抗血栓医療機器の開発については、2008年3月23日付けの『日経産業新聞』でも取り上げられました。この『ダイヤモンドライカーボン』は、ペットボトルに用いられている他に、加工工具、電気カミソリ、そして最近はエンジン部品などへの実用化も検討され、身近な物にも利用されています。



診療科 新体制

整形外科

当科では、古府照男教授、助教4名(藤野真歩、小田部莊一郎、柴田孝史、園部正人)に加えまして、本年度より、中川晃一准教授(元千葉大学大学院講師)、青木保親講師(元千葉労災病院副部長)、中島新講師(元千葉市立青葉病院主任医長)の3名が新たに赴任いたしました。中川は膝関節外科・スポーツ医学、青木は脊椎外科、中島はリウマチ・関節外科をそれぞれ専門といたしております。また、東邦大学医学部整形外科主任教授の勝呂徹先生が、月2回(第1,3水曜日)リウマチ専門外来を担当し人工関節手術の指導も再開となりました。今回のスタッフ増員により、今まで以上に多くの症例への対応が可能となります。地域医療に益々貢献できるよう、また研究・教育面でもより多くの実績をあげられるよう、一同精進努力してまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。



泌尿器科

当科は昨年まで高波眞佐治教授、森岡元助教、西見大輔助教の3人体制で、地域の患者さんに十分な診療を提供できていたとは言えない状態でした。本年1月に神谷直人講師が着任され、4月には鈴木啓悦教授、直井牧人助教、矢野仁助教、遠藤匠助教が着任され、現在8人体制(木曜日の午後のみ、柳下客員講師による夜尿症外来開設)となりました。外来も3ブース常設可能となり、体腔鏡手術、前立腺癌手術にも対応できるようになりました。その他、軟性尿管鏡による経尿道的尿管碎石術、軟性膀胱鏡による低侵襲検査、間質性膀胱炎の診療も可能になります。スタッフが若返り、活気ある泌尿器科に生まれ変わりましたので、今後の成果に御期待下さい。

